

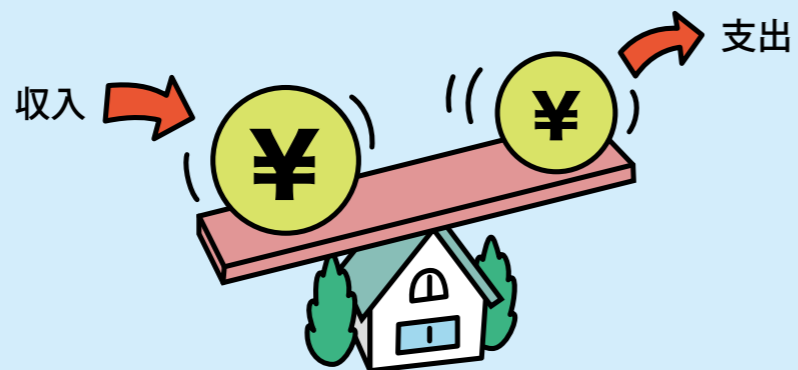
4th ステージ

ローン・クレジットは計画的に利用しよう。

貸出

社会人生活もそろそろ10年を越え、これまでの貯蓄を頭金にしてローンを組み、住宅を購入しようとする人生の第4ステージへ。

一方、クレジットカードなどの利用が普及したキャッシュレス社会には、収支のバランスを考えたお金の使い方をしないと、思わぬ落とし穴に陥る危険が潜んでいます。



チャレンジ ローン・クレジット

1 グループで話し合ってみよう

もしも金融機関によるローンというしくみがなかったら、住宅を購入するにはどのような方法が考えられますか。問題点も含め、グループで話し合ってみましょう。
(資金が不足しているときの対策を考えましょう。)

2 計算してみよう

借入金額、金利、借入期間のいろいろな組み合わせについて、支払利息額と総返済額を調べてみよう。

※全国銀行協会ホームページの住宅ローン新規借り入れ返済シミュレーションを利用して計算しましょう。
<http://www.zenginkyo.or.jp/service/simulation/index.html>

●ローン

	借入金額	金利(年利)	借入期間	支払利息額	総返済額
1	3,000万円	3%	30年	(ア)円	(イ)円
2	3,000万円	2%	30年	(ウ)円	(エ)円
3	3,000万円	3%	20年	(オ)円	(カ)円
4	3,000万円	2%	20年	(キ)円	(ク)円
5	2,000万円	3%	30年	(ケ)円	(コ)円
6	2,000万円	2%	30年	(サ)円	(シ)円

●クレジット

	借入金額	返済方法	借入期間	金利(年利)	支払利息額	総返済額
1	50万円	一括返済	1ヶ月	0%	(ス)円	(セ)円
2	50万円	元利均等返済	1年	15%	(ソ)円	(タ)円
3	50万円	元利均等返済	2年	15%	(チ)円	(ツ)円

チャレンジ たじゅうさいむ 多重債務

1 考えてみよう

AさんはX銀行から借り入れた200万円の今月の返済分 約10万円を準備できないため、他のY金融会社から10万円借り入れてX銀行へ今月分を返済しました。でも、本当にこれでよいのでしょうか。考えてみましょう。

借入先	借入金額(元本)	金利(年利)	借入期間	毎月返済額
X銀行	200万円	12%	2年	約100,000円
Y金融会社	10万円	15%	1年	約10,000円

↓
翌月からの返済額 **約110,000円**

現金・預金以外の 多様な支払方法

4-1

商品やサービスの代金の支払手段としては、支払時点で**決済**が終了（即時決済）する現金、**電子マネー**、**デビットカード**などと、後で決済される**クレジット**があります。

電子マネーとは、コンビニエンスストアでの買い物代金や電車運賃など比較的少額の支払を、プリペイド型のカードや携帯電話のいわゆる「おサイフケータイ」で支払うしくみのことです。

銀行が発行している**キャッシュカード**で支払うことができる「**デビットカード**」サービスは、支払時に自分の銀行口座から代金を引き落として決済するしくみです。

また、クレジットは商品やサービスの代金を後払いにできるしくみで、クレジット機能を付けたキャッシュカードを発行している銀行もあります。

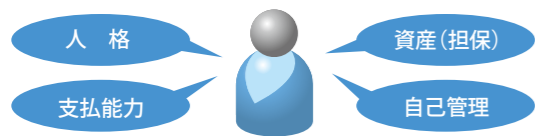
クレジットとは「信用」のこと — 4つのC

4-2

クレジット (credit) とは、商品などの代金を後で（クレジット会社に）支払う約束のことをいい、**ローン** (loan) とは後で貸主（銀行など）に返済する約束でお金を借りることをいいます。どちらも定められた金額を定められた期日までに返済するという契約によって成り立っています。

クレジットとは「信用」の意味で、お金を借りる人の「信用」は具体的に「4つのC」で表されるとされています。

- ① Character (人格) : 約束どおり返済する意志
- ② Capacity (支払能力) : 返済できる支払能力
- ③ Capital (資産) または Collateral (担保) : 返済できないときに代わりになる資産
- ④ Control (自己管理) : 計画的な返済能力



クレジットは 立替代金の後払いシステム

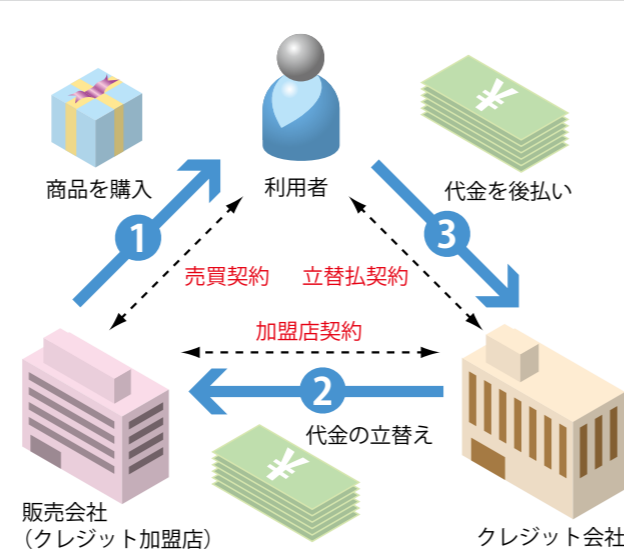
4-3

クレジットによる支払とは、たとえばあなたが買った商品の代金を、クレジット会社があなたに代わってお店に支払い、後の定められた日にあなたの銀行口座からその代金をクレジット会社に返済するしくみで、**三者間契約**になっています。

返済方法には、**一括返済**（1～2回で支払う）、**分割返済**（3回以上に分けて支払う）、**リボルビング返済**（返済回数が決まらず毎月一定金額または一定割合を支払う）などの種類があります。

三者間契約

図4-1



ローンはまとまったお金を借りて 少しずつ返済していく

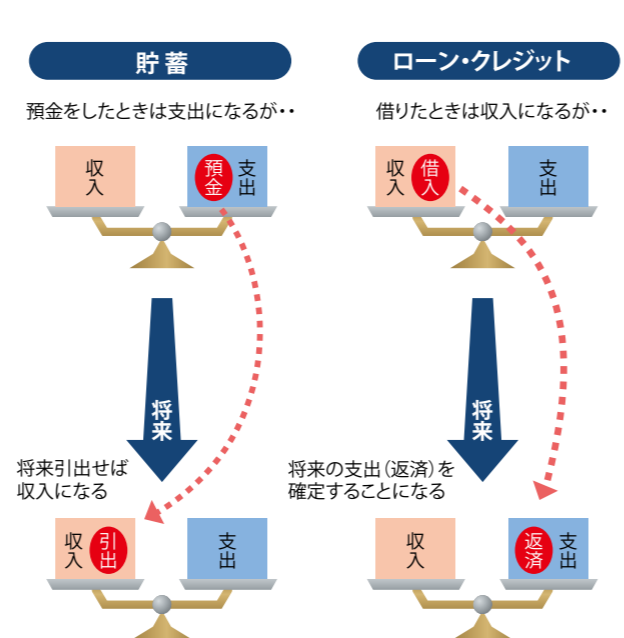
4-4

家や土地などの高額な買い物を自分の貯蓄だけでしようとする、多くの人は実現するのは数年から数十年先になってしまいます。そこで住宅ローンを利用し、家や土地の購入費用として銀行などからまとまったお金を借りて、毎月の収入から少しずつ返済していきます。つまり、毎月貯蓄していく代わりに、返済していくことで住宅購入を早期に実現するしくみが住宅ローンです。

ローンには結婚、子どもの教育、住宅や自動車の購入などに使いたい道が限られているものと、自由に使えるものがあります。

家計における貯蓄とローン・クレジットの考え方

図4-2



お金を借りたら 利息をプラスして返済する

4-5

お金を借りたら、通常は**利息**を付けて返済します。世の中の**金利**は常に変動していますが、住宅ローンは数十年にわたって返済するため、その間に金利が大きく上昇してしまうと返済できなくなってしまう危険性があります。このため、最初の数年間や全期間の金利を一定にしているローンなどもあります。

ローンの金利はいろいろな条件で決まります。一般的に、使い道が限定されているものより自由なもの、期間が短いものよりは長いもののほうが金利が高くなる傾向にあります。

支払う利息は、この金利(の高低)、および借入の期間で異なります。

また、ローンにも、一括返済、分割返済、リボルビング返済といった返済方法がありますが、そのうち分割返済はさらに二つの方法に分けられます。

- ① **元金均等返済**: 毎月の<元金返済分>が一定で、それに利息をプラス
 - ② **元利均等返済**: 毎月の<元金返済分+利息分>が一定
- たとえば、3,000万円を金利3%で借入れ、30年で返済すると、元金均等返済の場合は返済総額は約4,350万円、元利均等返済の場合は約4,550万円になります。

ローン・クレジットの返済方法によるメリット・デメリット

図4-3

返済方法	メリット	デメリット	
一括返済	クレジットカード(ローンやキャッシングを除く)の場合には、原則として利息がかからない。	1～2回で全額返済しなければならないため、1回あたりの返済負担が大きい。	
分割返済	元金均等返済	元利均等返済よりも返済総額が少なくなる。	毎月の返済額は初回が一番多くなるなど、当初の返済負担が大きい。
	元利均等返済	毎月の返済額が均等なので返済計画が立てやすい。	当初は元金の返済額が少ないため、元金均等返済よりも返済総額が多くなる。
リボルビング返済	追加で借りても原則として毎月の返済額が一定で、返済計画が立てやすい。また、余裕のあるときには多めに返済するなどの自由が大きい。	追加で借りても原則として返済額が変わらないということは、それだけ返済回数が増えていくということで、返済がいつ終わるのかわかりにくい。	



ローン・クレジット利用の心がまえ

- ① ローンやクレジットは他人からの「借金」で、将来の収入から返済しなくてはならない、ということを認識する。
- ② いくら借りられるかではなく、いくらなら返せるかを考えて、あらかじめ自分自身の限度額を決める。
- ③ 何のために借りるのか、なぜ必要なのかを明確にしてから借りる。
- ④ 返済完了までの計画を立ててから利用する。
- ⑤ 借金返済のためには絶対利用しない。
- ⑥ 必ず金利や契約内容を確認してから利用する。
- ⑦ 悪質な業者や商法に注意する。



- クレジットは立替代金を後から返済するしくみ。
- ローンは将来の収入を先に使って高額な買い物ができるしくみ。
- クレジットもローンも借金。金利分だけ返済額が多くなる。
- 「ちょっとだけ」の軽い気持ちが多重債務への落とし穴。